チェックポイント① 玉川兄弟の像

玉川兄弟の像とは？



玉川上水の開削に大きな功績のあった「玉川兄弟」を永く称えるため、昭和33（1958）年、ゆかりの地である羽村取水堰付近に建てられた像です。
右側に立ち、当時の測量器具である間縄を持っているのが、兄の庄右衛門で、左側で片膝をついて間竿を持っているのが、弟の清右衛門です。

行き方

JR青梅線　羽村駅西口から　徒歩約15分

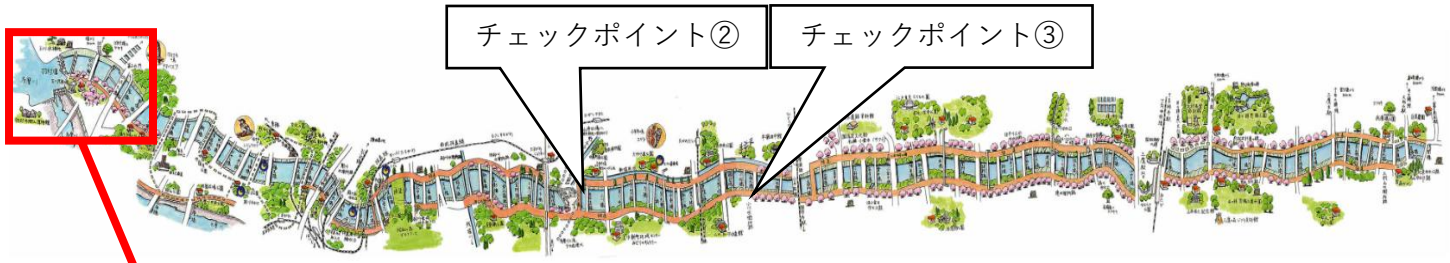
①JR羽村駅西口を出て、交番左側の道を道なりに直進します。
②300m（約4分）ほど直進すると、６差路に突き当たります。直進方向にある、歩道橋の掛かった道に入り、下り坂を道なりに進みます。
③250m（約4分）ほど進むと左手側にお寺（禅林寺）が見えますので左折します。
④200m（約3分）ほど道なりに進むと羽村堰入口交差点に到着します。前方に橋（羽村橋）があるため渡ります。
⑤渡り切ったところで右手側を見ると、玉川上水に沿うように歩道がありますので、直進します。
⑥そのまま200m（約3分）ほど進むと左手側に「玉川兄弟の像」があります。

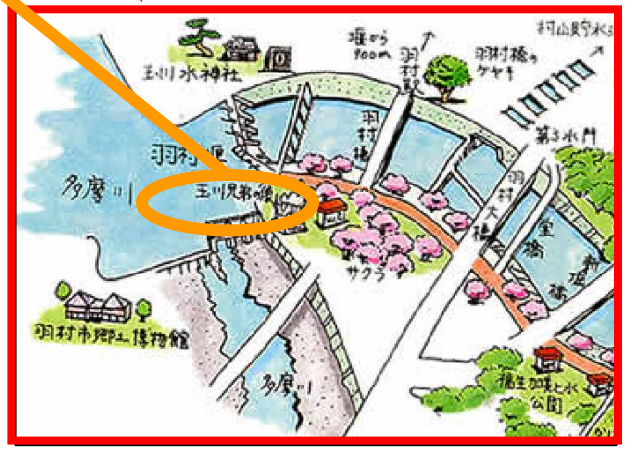
さらに見どころ！① 羽村取水堰！



兄弟像の奥に流れる多摩川。その上流に目を移すと大きな堰が見えます。これは東京都水道局が管理する羽村取水堰です。
羽村取水堰は玉川上水と同時に建設された堰で、多摩川の水を玉川上水に誘導する、いわば玉川上水の始まりと言える場所です。
江戸時代の技術を使った「投渡堰」という型式を取っている非常に貴重な堰となっており、平成26年には土木学会選奨土木遺産に選ばれています。

〈玉川上水全体図〉





さらに見どころ！② 羽村陣屋跡！



玉川兄弟の像の近くにある羽村陣屋跡。玉川上水が開削された承応2年（1653年）、取水口を管理するために設けられた幕府の役所の跡です。
ここでは「水番人」と呼ばれる人たちが、江戸へ送る水の入口を守っていました。玉川上水を支えた歴史にふれられる、もう一つの見どころです。

〈羽村駅から玉川兄弟の像までの道順〉

